

平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」申請書（様式）

■申請区分	1 単独                      ② 複数
■設置形態	1 国立                      2 公立                      ③ 私立
■大学・短期大学・高等専門学校名	_____
■主となる1つの 大学・短期大学・高等専門学校名	_____ 桜美林大学（関係大学名は別紙参照）
■所在地	〒 194-0294 _____ 東京都町田市常盤町3758番地
■設置者 (ふりがな)	_____ 学校法人 桜美林学園
■学長の氏名	_____ <sup>さとう</sup> 佐藤 <sup>とよし</sup> 東洋士
■申請テーマ	_____ 4
■取組名称	_____ 大学間連携による教養教育への総合的取組
■取組期間	_____ 平成16年度から平成18年度
■取組単位	_____ 大学全体（一部の大学は学部単位）
■取組担当者	
所属部局名	_____ 大学事務局
職名	_____ 単位互換担当事務長
住所（勤務先等） (ふりがな)	_____ 東京都町田市常盤町3758（桜美林大学）
氏名	_____ <sup>ほんごう</sup> 本郷 <sup>ゆきこ</sup> 優紀子
電話番号	_____ 042-797-9914（勤務先）

## 取組の概要 (図1)

我々首都圏西部に位置する有志大学グループ(28大学)は大学間で連携し、現代に求められる大学教育の質向上のため、以下のとおり、教養教育への総合的取組を行っている。

**教養教育への総合的取組** : 各大学が提供する多彩な教養科目の中から学生が履修したものを所属大学の単位として認定する「単位互換制度」を実施する(平成11年度より)。

**教養教育への総合的取組** : 半期ごとに学生の希望に合わせた統一テーマを設定し、隔週土曜180分のオムニバス形式の教養科目として「共同授業」を開講する(平成13年度より)。

**教養教育への総合的取組** : 大学における教養教育の実現には、前段階における導入教育(大学前教養導入教育)が必要であるため、高校生に「共同授業」の受講を認め(平成14年度より)、「高校生のための“大学”セミナー」を開催する(平成15年度より)。

(図1)



## 現代的教育ニーズへの取組

### 現代における「教養教育への総合的取組」の必要性

先行きの見えない21世紀の国際情勢下、日本にはさまざまな分野での国際競争力の強化が必要とされており、それに応えるための人材の養成が求められている。大学審議会答申（「21世紀の大学像と今後の改革方策について 競争的環境の中で個性が輝く大学」）、中央教育審議会答申（「新しい時代における教養教育の在り方について」）でも提言されているように、大学教育にも即戦力となる知識・技能を習得させるだけに留まらず、複雑で困難な問題を柔軟に解決へと導くための幅広い視野と教養ある知識人の養成が求められている。

しかし、その一方で日本の大学は、社会的な目的喪失感や18歳人口の半数が大学・短期大学に進学することなどによる大学入学者の意識や学力低下の危機に立たされてもいる。

学ぶ意欲や基礎学力の乏しい学生の占める割合が年々増す状況の中、我々首都圏西部地域にキャンパスを持つ有志大学・短期大学は下記のとおり、「教養教育への総合的取組」を行い、大学教育の質の向上、すなわち広い視野と柔軟な思考を備えた教養ある知識人の養成のための、組織を上げての努力を続けている。

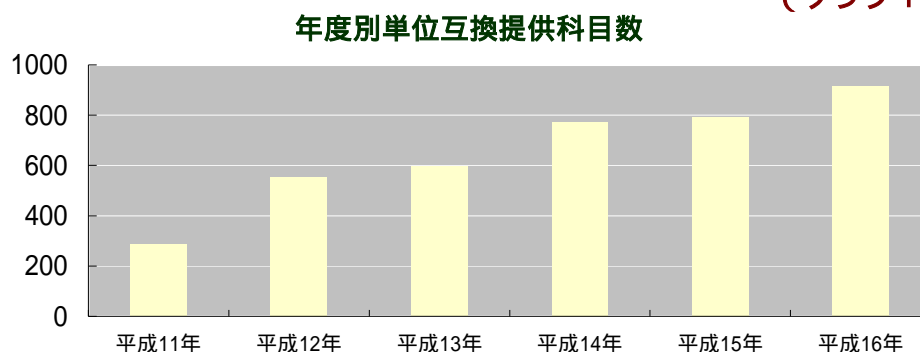
### 教養教育への総合的取組 大学間連携による「単位互換制度」

一般的に、小規模大学や単科大学は、それぞれ固有の専門分野に秀でた授業科目を持っている反面、専門分野以外の幅広い教養科目の提供が難しいという問題を抱えている。それらの大学にとって、他大学との「単位互換制度」の実施には、自学で提供しにくい専門とは異なる分野の教養教育を学生に提供できるというメリットがある。

大学相互の協力と交流を通じ、教養教育の充実を図り、幅広い視野と教養ある知識人の養成を目的として、我々首都圏西部に位置する有志大学は平成10（1998）年、各大学の学長が中心となり教員と職員の協力のもと、大学間の連携による「単位互換制度」をスタートさせた（別紙：資料1）。

この連携に加わっている大学の専門分野は、医療、看護、福祉、理工、農業、文学、語学、社会学、経済、商業、美容、芸術（美術・音楽・演劇）など多岐にわたるため、提供される単位互換教養科目も多様である。平成10年の発足より、連携大学・短期大学の数も年々増え、単位互換に提供される教養科目数も増加している。平成16年度は、28大学のうち27大学\*から計915科目（4,113名分の受入枠）が提供された（グラフ1）（別紙：資料2・資料3）。（\*28大学のうち1大学は新規参加のため平成17年度より科目提供を開始する予定。）

（グラフ1）



この「単位互換制度」により、連携大学の学生は、大規模総合大学の教養科目をはるかに超える、幅広く多彩な教養科目の履修が可能となった。

### 「単位互換制度」を深化させるための工夫

「単位互換制度」を利用して他大学の学生と肩を並べて授業を受けその文化に触れることは、良い刺激となり、学生にとっては授業科目の幅を広げるだけでない利点がある。しかしその反面、問題のあることも、「単位互換制度」を利用しない学生へのアンケート調査により判明した。我々連携大学のキャンパスは東京、神奈川に限られてはいるものの、同一キャンパス内の移動に較べ時間がかかってしまう（別紙：資料4）。

その問題解決の一つとして、我々は平成13年、土曜の午後に交通の便の良いキャンパスを使った「共同授業」をスタートさせた。

さらに、本来の単位互換教養科目の受講を容易にするため、駅近くの場所での「サテライト授業」を計画する一方、パソコンにより遠隔地でも自由な時間に受講が可能な「e-ラーニング授業」を実施するためのソフト、ハード両面の計画を行っている。

### 教養教育への総合的取組 大学間連携による「共同授業」の開講

先にも述べたように、単位互換授業の受講が地理的・時間的に困難な学生のために、我々は平成13年度から通常の単位互換授業とは別の教養科目である「共同授業」を、交通至便の連携大学のキャンパスを使って開講している。

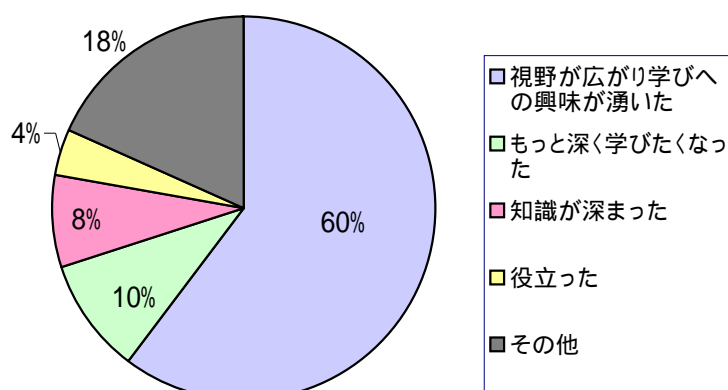
この「共同授業」は、単位互換で連携している大学の教員が統一テーマのもとに隔週の土曜日6回を使って講義をする。受講生は1テーマ6名の講師陣による講義により、テーマへの多面的なアプローチを体験し、幅広い視野と教養を身に付けることができる（別紙：資料5、資料6）。

### 「共同授業」をより学生のニーズに合わせるための工夫

「共同授業」の実施については、テーマごとにコーディネーターの教員を中心に6名の教員が講師打合せ会議を開き、統一テーマにそった各講義テーマと講義内容、まとめ授業の運営方法を協議・検討する。

また、テーマの最終回には学生対象のアンケートと講師対象のアンケートをとり、その結果を次回の「共同授業」に反映させる努力を払っている。これにより、年々「共同授業」

（グラフ2）共同授業を受けた感想



の完成度が高くなり、統一テーマやその中の個々の講義テーマも学生のニーズを反映したものと評価されるようになってきた（グラフ2）。

平成16年度は定員をはるかに超える参加希望が出たため、多くの希望者を断ることになった。単位互換とともに、「共同授業」についてもe-ラーニング化を図るべく準備を進めているところである。

## 教養教育への総合的取組 大学間連携による「大学前教養導入教育」の実施

大学における教養教育の実現のため、大学間の連携による単位互換を実施し、さらに学生のニーズに合った形での教養教育として「共同授業」を開講してきた我々に、神奈川県立高等学校進路指導協議会（166校）から「共同授業」の受講希望が出された。協議・検討の結果、平成14年度より高校生の「共同授業」の受講を1テーマ200名の定員のうち20名まで受け入れることとなった。当初、高校生が大学生と同じ授業についていくことが可能かと危ぶまれたが、講師の報告や、高校生自身のアンケート結果によって、受講においては大学生との差は殆ど見られず、むしろ高校生に対する学びの動機付けが効果的に行われていることが明らかになった。



「共同授業」最終日の「まとめ授業」風景  
大学生にまじって高校生からも質問が

「共同授業」の高校生の受け入れを機に、我々は高校教員との話し合いを重ねることとなり、高校においては、なぜ大学に行くのかの目的意識がないまま漠然と大学を目指す生徒や、学ぶ意欲のない生徒が多いことを知ることができ、その状況が大学の学びの意欲の乏しい学生の状況に繋がっていることを推察することができた。

我々はこの高校との交流により、大学生への教養教育を円滑に行うためには、その前段階の高校時代に大学と高校が協力し合って学びの動機付け（大学前教養導入教育）を行う必要があるとの認識に至った（中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」第3章第2節にも提言されている）。

このような背景のもと、平成15年の8月に、高校教員の協力と新聞社の後援を得て、高校生に大学で学ぶことの意味を考えさせるきっかけを作り、学びへの動機付けを行うための2泊3日の「高校生のための“大学”セミナー」を立ち上げた（別紙：資料7）。

このセミナーの特長は、

大学が個々の大学としての宣伝をしない。

個々の大学でなく「大学」そのものを理解させるとともに、学びへの動機付けを行う。

大学が組織をあげて高校と協働で企画・運営をする。

2泊3日の宿泊セミナーで、同じ興味を持つ参加者である高校生がじっくり寝食をともに話し合うことができる。

という点である。

セミナーの参加者アンケートの回答からも、我々の意図を上回る成果の上だったことが明らかになった（別紙：資料8、資料9、資料10）。

### 「大学前教養導入教育」をより効果的に進めるための工夫

「単位互換教養科目」や「共同授業」のe-ラーニング化を進めることと平行して、希望する高校への「共同授業」のe-ラーニング配信を行う。1テーマ20名の枠しか提供でき

なかった「共同授業」や、「高校生のための“大学”セミナー」に時間的な事情により参加できなかった多くの高校生が参加できることになり、「大学前教養導入教育」への道が開けることになる。高校側の態勢によってはパソコン上での授業参加だけでなく、講堂などの大スクリーンに画像を映し出して多数の高校生が受講できる可能性もある。

## 実現に向けて

我々は、「教養教育への総合的取組」として「単位互換制度」の実施、「共同授業」の開講、「大学前教養導入教育」の実施という三つの目標をかかげ、現代的教育ニーズである幅広い視野と教養ある知識人の養成に向け努力している。

### 「単位互換制度」の具体的な実施状況

28大学が連携し、個々の大学だけでは提供しにくい幅広い分野の教養教育科目を学生に受講させるために制度化したこの取組の具体的な流れはおよそ次のとおりである。

年2回、連携大学の学長が集まる総会で、連携に関する前年度の報告および年間事業計画を立てる。また、2ヶ月に一度、連携大学の単位互換担当者が集まる事務連絡会を開催し、単位互換に関する事務手続きや情報交換を行う。

単位互換の実施については、前期、後期の授業の前に各大学の教務担当部署が、それぞれの特色ある教養科目の教員と協議の上、各大学の提供科目の一覧を単位互換事務担当大学にメールで送信し、担当大学がそれをあわせた総一覧表を共同のホームページにアップロードする。

それと平行し、各大学は自学の単位互換の募集要項を作成し、連携している他大学（27大学）の教務担当部署宛に1部ずつ送付する。学生はホームページの一覧および各大学の募集要項を見て、自学教務担当部署に単位互換教養科目の履修出願書を提出する。

所属大学の教務担当部署から受け入れ大学の教務担当部署に送付された単位互換教養科目の履修出願書は審査の後受理されると、その写しが受け入れ大学の発行する受講許可証とともに学生の所属大学に送付され、学生の手へ渡される。

成績評価は受け入れ大学の学生と同様に行われ、その結果は学生の所属大学の教務担当部署に送付される。

単位互換教養科目の受講に際して受講料は徴収されないが、例外的に実験や実習に関わる費用の実費が徴収される場合もある。

### 「単位互換制度」の今後

現在、多彩で幅広い「単位互換制度」を学生がよりいっそう利用しやすいものとするため、交通の便の良い場所での「サテライト授業」の実施と、学生が自宅や大学のパソコンから自由にアクセスして受講できる「e-ラーニング授業」の実施に向け準備を進めている。

「サテライト授業」については、相模原市との話し合いにより、平成22年度末に完成予定の相模大野駅西側地区市街地再開発事業の一環として相模原市相模大野3丁目2番～7番地内に建築予定の建物の公共公益施設内に場所（有料予定）を確保したいと考えている。平成16年12月～平成23年3月は「サテライト授業」用に渋谷区に教室を借りる予定であり、各大学から「サテライト授業」の希望を募り、従来の単位互換の出願状況や地理的条件などを考慮して、単位互換提供科目の一部を開講するための科目選定を行うこととしている。

単位互換授業に「e-ラーニング授業」を取り入れることについては、授業内容によってリアルタイム授業方式と、オンデマンド授業方式\*を使い分けることにする。

(\*オンデマンド授業方式とは、予め作成した授業を一定期間サーバーに蓄え、学生が都合の良い時間帯に自宅や自大学のパソコンからサーバーにアクセスして受講できる仕組み。リアルタイム授業方式と較べたメリットは、学生が自由な時間に、何度でも繰り返し授業を受けることができること、教員が参考資料やデータを取り込むなど授業に十分な準備を行うことができることなどにある。)

#### 「共同授業」の具体的な実施状況

時間的、距離的制約で平日の単位互換を利用し難い学生のために、隔週土曜の午後を開講する「共同授業」(受講は無料)は、連携大学から派遣された講師が1回2コマ(1コマ90分)ずつ行う6回完結のオムニバス形式の教養教育授業であり、各大学で単位認定(2単位)を伴う正規の授業科目として扱われている。各テーマの最終日には全講師が集まり統一テーマの総括を行う「まとめ授業」も用意されている。この「共同授業」の統一テーマ(現在は年4種類ある)は学生のアンケートなどを参考に決められ、単位互換教養科目の提供と同様、学生に幅広い視野と教養を身に付けさせることを目的として開講されている。

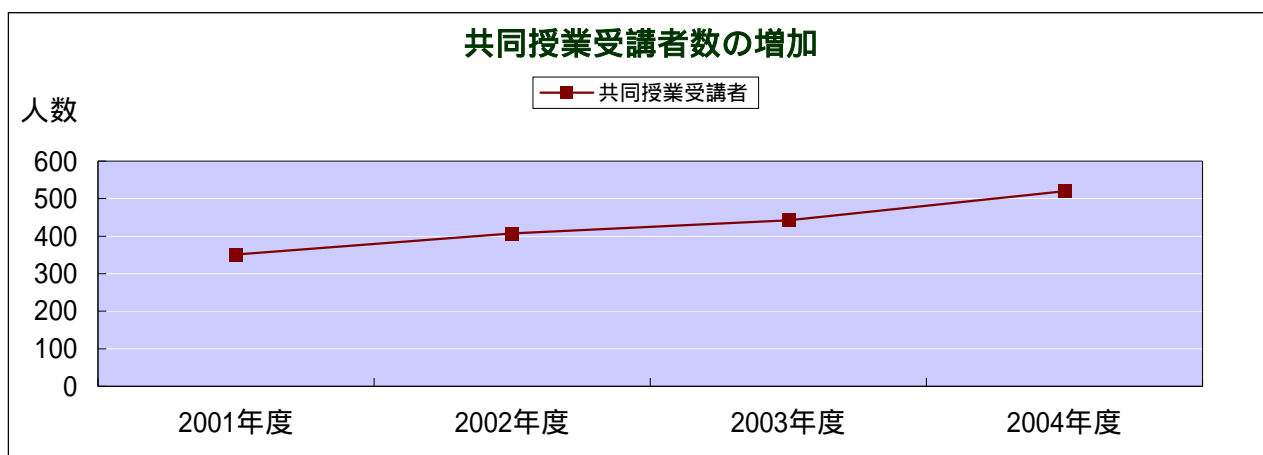
「共同授業」の実施にあたって、授業当日の受け付け業務、受講希望学生からの受講出願書の受け付けや受講許可証の発行などの事務処理は、連携大学の中から選ばれた共同授業担当役員校(2大学)が行うことになっている。

「共同授業」は土曜開講であるため、大学の教室が利用できる。そのため、開催場所は交通の便の良いキャンパスを充てることになっている(半期に2テーマ開講されるため、年間4大学が会場提供校となっている)。

半期ごとに各大学の受講希望学生は受講出願書を所属大学の教務担当部署に提出し、180名の定員で受講が決定される。受講希望者が定員を超えた場合は、共同授業担当役員校が出願書に記載された志望理由などをもとに選考する。

年々人気が高くなり、平成16年度後期は多数の希望を断らざるを得ないまでに受講希望者が増えた(グラフ2)(別紙:資料11)。

(グラフ2)



## 「共同授業」の今後

人気の高い「共同授業」については、今後 e-ラーニングを併用することにより希望者全員が受講できるよう準備を進める予定である。この際、実際の授業を行いながらであることから、単位互換授業とは異なり、リアルタイム授業方式の e-ラーニングのみとする。具体的には平成 17 年度前期から従来型の対面式授業と平行して e-ラーニングを実施する予定で準備を進めているところである。

## 「大学前教養導入教育」の具体的な実施状況

学生への教養教育を円滑に行うためには、その前段階の高校での学びの動機付け（大学前教養導入教育）を行う必要がある。

我々は、大学入学前の教養導入教育のために、大学生の教養教育として開発した「共同授業」への高校生の受講を認め、さらに平成 15 年度には高校生のために「大学」で学ぶことはどういうことなのか、また人生にとって大学での学びはどのような位置付けになるかを考えさせるとともに、学びへの動機付けのための、個々の大学の宣伝を行わない「高校生のための“大学”セミナー」を高校教員とともに立ち上げた。

このセミナーは新聞社の後援と、町田市・相模原市の協力（募集要項の広報掲載、自治体施設での募集要項の掲示・配布）を得、我々連携大学の組織的な取組として学長、教員、職員に広く承認され、今後も継続していくこととなっている。

セミナーの開催場所は、連携大学のキャンパスとし、宿泊場所は夏期休暇中に空いている大学の寮および合宿所を利用し、セミナー会場と宿舎の間は、スクールバスで送迎する。

## 「大学前教養導入教育」の今後

「大学前教養導入教育」活動を広げるためには、e-ラーニングの配信を行う必要があり、その準備を進めることとしている。

さらに、これまでの「高校生のための“大学”セミナー」は、開催場所を大学のキャンパスとしてきたが、「個々の大学の宣伝を排す」という基本精神を徹底させて活動を広げるためには、どこの大学にも所属しない会場で開催する必要がある、関係大学外からも講師を招く必要がある。今後その方針で実施する準備を進めている。

## 緊密な大学間連携

大学教育の質の向上を目指すための教養教育の総合的取組は、いずれも我々大学間の緊密な連携により成り立っている。

具体的には、年 2 回の学長による総会で年間の事業計画が決定され、それに基づき年 6 回以上の事務担当者による連絡会議で詳細が協議、決定される。その他、必要に応じて連携大学から選出された役員による役員会も開かれる。

さらに、各大学の連絡責任者が参加する Web 上のメーリングリストにより、情報の共有が行われ、単位互換教養科目の回覧、「共同授業」の募集要項の回覧、大学セミナー実施に関する打合せや役割分担の取り決めなど、詳細な事務連絡や意見交換、相談がリアルタイムで行われている。

## 教育の社会的効果

我々は、次の三つの目標をかかげ、大学の教養教育の実現をめざしている。

医療、看護、福祉、理工、農業、文学、語学、社会学、経済、商業、美容、芸術（美



術・音楽・演劇)などの専門分野の多彩な教養科目による「単位互換制度」  
学生の興味・関心のある統一テーマのもと、さまざまな角度からアプローチされる  
オムニバス形式の教養授業である「共同授業」

大学の前段階である高校生に対する「大学前教養導入教育(教養科目である「共同  
授業」への高校生の受け入れ、また、高校生に「大学」の学びを知らせ、学びの多  
面性や面白さを感じ取らせることにより、学ぶ意欲を喚起させるための、全国的に  
も稀な高大教職員の連携による「高校生のための“大学”セミナー」の実施)」

これら三つの取組において、以下のようなきめ細かな指導も行っている。

授業後の学生・生徒の質問や希望には、その都度教員や担当職員(単位互換担当職  
員、共同授業担当職員、大学セミナー担当職員)が対応し、適切な回答をするこ  
とにしている。

「共同授業」では出席票に質問事項の記入欄があり、授業ごとに質問ができる  
システムになっている。「共同授業」の質問には、後日教員から回答が学生の場  
合は所属大学の教務担当部署を通し学生に渡され、高校生の場合は高校に送付  
されることになっている。

各取組ごとにアンケート調査を実施し、その結果を教員に渡すとともに、事務  
連絡会で集計・分析を行い、次回にその結果を反映させるよう努めている。

大学生への教養教育の実現のために、その前段階である高校時代の学びの啓発にまで目  
を向けた総合的な教養教育に対する我々の取組は、わが国の教養教育にとって先進的なも  
のである(中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」第3章  
第2節)。このような我々の活動に賛同する大学が徐々に増え、連携の輪が広がりを見せて  
きている。

今後、大学間の連携に高校をも加えた形としてのe-ラーニングシステムが加われば、全  
国規模の画期的な教養教育への総合的取組が可能となる。

## 評価体制への取組

我々の大学間連携では、「共同授業」、「高校生のための“大学”セミナー」の全参加学生・  
生徒に対するアンケート調査、全指導教員に対するアンケート調査を行っている。

指導教員には学生、講師に対するアンケートを集計後、その結果を送付し、次回の講師  
会議で、それをもとに授業運営を検討する。

さらに、学生、講師に対するアンケート結果を2ヶ月毎に開かれる事務連絡会議と年2  
回開催の総会に提出し、今後の授業運営やテーマ設定の検討を行っている。

現在「共同授業」については講師アンケートが自己評価のみであるが、「共同授業」は公  
開的要素が高いため、他の講師による評価を行うシステムを取り入れやすい。「共同授業」  
をFD活動推進のモデル授業と位置付け、平成17年度より他の講師による評価を行う予  
定で準備を進めているところである。

## 別紙(データ、資料等)

### 別紙資料1：会則抜粋

(目的)

.....単位互換に参加する大学が、相互の協力交流を通じ教育課程の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を達成し、もって参加大学の充実、発展に寄与することを目的とする。

### 別紙資料2：大学別平成16年度単位互換提供科目数・受入枠一覧

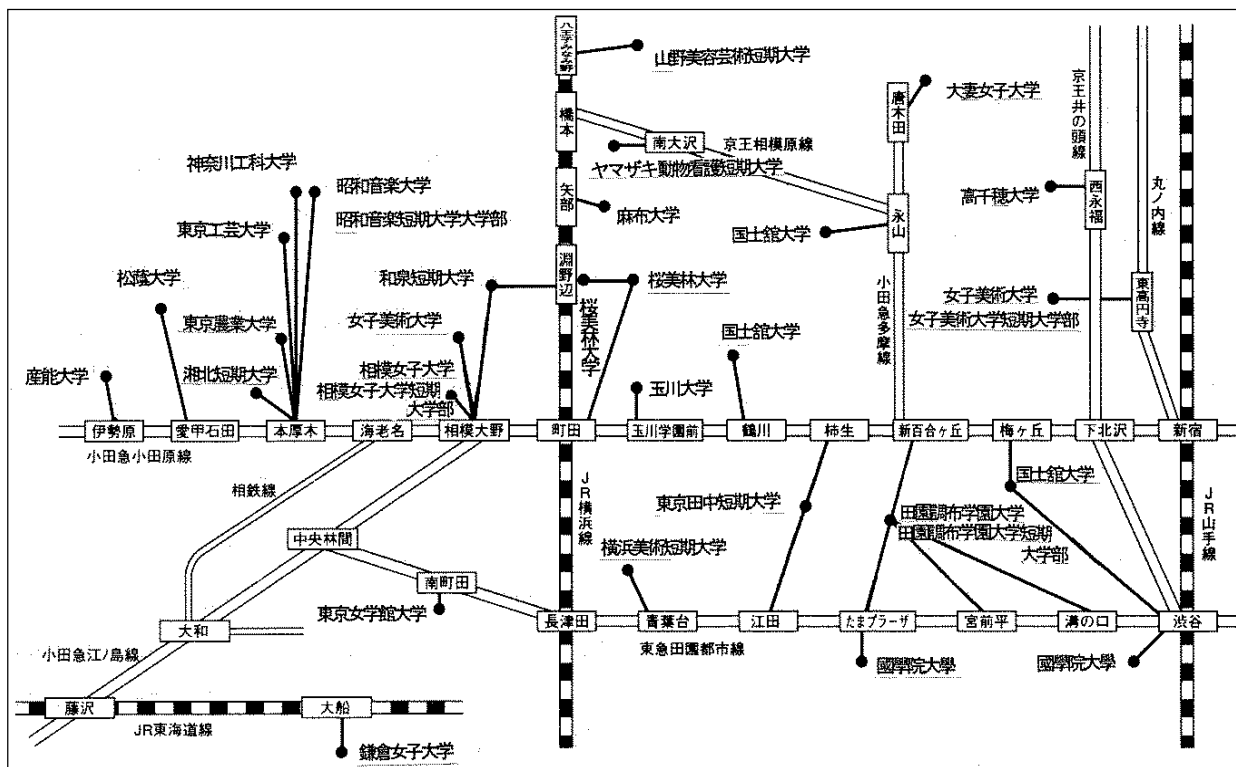
大学・短期大学名	科目数	受入枠
麻布大学	13	52
和泉短期大学	21	81
桜美林大学	55	275
大妻女子大学*	0	0
神奈川工科大学	80	158
鎌倉女子大学	12	24
國學院大學	37	185
国土館大学	181	648
相模女子大学	31	135
相模女子大学短期大学部	8	40
産能大学	43	214
松蔭大学	17	51
湘北短期大学	12	51
昭和音楽大学	20	82
昭和音楽大学短期大学部	8	40
女子美術大学	93	348
女子美術大学短期大学部	10	21
高千穂大学	16	160
玉川大学	25	125
田園調布学園大学	9	45
田園調布学園大学短期大学部	16	100
東京工芸大学	85	276
東京女学館大学	10	30
東京田中短期大学	16	77
東京農業大学	79	790
ヤマザキ動物看護短期大学	2	10
山野美容芸術短期大学	13	70
横浜美術短期大学	3	25
合計	915科目	4,113名

\* 平成17年度より単位互換開始大学

### 別紙資料3：年度別単位互換提供科目数、受入枠一覧

	平成 11 年 (1999 年)	平成 12 年 (2000 年)	平成 13 年 (2001 年)	平成 14 年 (2002 年)	平成 15 年 (2003 年)	平成 16 年 (2004 年)
科目数	285	553	595	772	793	915
受入枠(名)	1,685	2,903	3,063	3,636	3,971	4,113

### 別紙資料4：連携大学所在地



### 別紙資料5：「共同授業」での討論風景



「共同授業」は28大学の学生、高校生、教員が一つのテーマのもとに知的な議論を交わす場でもある。

別紙資料 6 : 平成 16 ( 2004 ) 年度共同授業統一テーマ・講義テーマ一覧

期 間	統 一 テ ー マ	講 義 テ ー マ
4/17 ~ 7/10	環境と生活 みんなの環境問題	地球と共生するライフスタイル 食・農・環境の視点から 環境ビジネスの視点 水環境と生活 水道水を飲んでも大丈夫か 公害から地球環境問題へ 私たちはどうしたらよいのか 移入植物と減少する植物の現状 これからの園芸活動を考える 人にやさしい都市(まち)づくり まとめ授業
4/24 ~ 7/3	人と文化 文明成長の基盤	逆説的「文明」の起源 ギリシア・ローマ文化の伝統 民族文化の普遍性と特殊性 死と病いの文化人類学 イスラムの信仰と儀礼 日本の文化と社会の基盤について 単位と生活 1m はどのようにして決められたか まとめ授業
9/18 ~ 11/27	豊かに生きる	アート・マネージメントの意義と課題 歌舞伎の庶民性 芸術ボランティア 人間の身体と生活を考慮した衣服 近代都市・建築の保存と再生 対話の時代に向けて まとめ授業
9/25 ~ 12/4	こころとからだの科学	積極医学のすすめ(ストレスの上手な利用法) 実験で探るこころ 合理的な人間、非合理的な人間 肥満を科学する(知的な身体を手に入れるために) こころとからだの自己分析 生体メカニズムを知って、自分のからだを科学しよう 心はどこにあるか まとめ授業

## 別紙資料7：「高校生のための“大学”セミナー」実施内容

### 第1回内容

1. 講演「大学で学ぶとは きみは何のために大学へ行くのか」(国際基督教大学: 絹川正吉)
2. シンポジウム「学びの多面性 違いを知ろう、環境学」(東京大学: 伊藤正直 / 東京工業大学: 市村禎二郎 / 國學院大學: 加藤季夫 / 桜美林大学: 高橋劭 / 一橋大学: 寺西俊一 / 山野美容芸術短期大学: 中原英臣)
3. 大学生によるパネルディスカッション「先輩からのアドバイス 悔いのない高校生活三か条とは？」
4. シンポジウム「高校時代、これは必須だよ」(桜美林大学: 諸星裕 / 国士舘大学: 梶原景昭 / 神奈川県立岸根高校: 小山力 / 読売新聞社: 村田雅幸 / ほか)
5. 講演「受験期を乗りきる心とからだ」(沖縄国際大学: 加藤彰彦・ペンネーム: 野本三吉)
6. グループディスカッション「大学生による進路カウンセリング」
7. 模擬授業 「人間:不完全な動物 文化人類学入門」  
「身近なモノから環境を考える」  
「アジアのことばと文字表記」  
「進化論 DNA から見た進化論」  
「こころに映る世界を測る」  
「社会福祉とは」
8. ワークショップ「からだのことばで知ってみよう“自分と世界”」(竹内敏晴)
9. 講演「自分の頭で考えるたのしさ」(文化庁: 寺脇研)

### 第2回内容

1. 講演「続・大学で学ぶとは きみは何のために大学へ行くのか」(国際基督教大学: 絹川正吉)
2. ワークショップ「演劇とことばの世界」(劇作家・桜美林大学: 平田オリザ)
3. 模擬授業 「文化の力学を考えてみよう」(東京都立大学: 本橋哲也)  
「美容芸術論」(山野美容芸術短期大学: 富田知子)  
「ペットバード入門」(ヤマザキ動物看護短期大学: 島森尚子)  
「動物の脳、ヒトの脳」(國學院大學: 加藤季夫)  
「劇場解剖学」(昭和音楽大学: 古橋祐)
4. パネルディスカッション「大学生からのアドバイス 悔いのない高校生活とは」
5. フォーラム「学びの可能性 わたしたち自身の 平和 を築くために」  
(東京都立大学: 本橋哲也 / 恵泉女学園大学: 上村英明 / 弁護士、アフガニスタン国際戦犯民衆法廷(ICTA)・イラク国際戦犯民衆法廷(ICTI)検事団事務局長: 猿田佐世 / ピースポート共同代表: 榊渕万里)
6. パネルディスカッション「高校時代、これは必須だよ」(桜美林大学: 諸星裕 / 読売新聞社: 村田雅幸 / 神奈川県立相模台工業高校・LISA開校準備担当: 片英治 / 東京都立大学: 生田茂 / ソニー株式会社: 山野井佳孝)
7. 講演「夢を実現するために必要なこと」(楽天株式会社取締役・株式会社音別代表取締役: 本城慎之介)

(平成 15 年 8 月 26 日「読売新聞」朝刊)

# 何のために大学へ行くのか？

きみは何のために大学に行くのか——をテーマに、「第一回高校生のための『大学』セミナー」(首都圏西部大学単位互換協定会主催、読売新聞東京本社後援)が二十五日、神奈川県相模原市の相模女子大で始まった。写真。

偏差値や知名度を頼りに入学し、学びたいことを見つけられずにいる大学生が少なくない中、高校生にあらじめ大学で学ぶ意義を考えてもらおうと、都内と同県内の計三十大学で作る同協定会が、初めて開催。二十七日までの二泊三日の日程で、首都圏の高校生を中心に、避くは宮城県の高橋生など計八十一人が参加している。

初日のこの日は、桐川正吉・国際基督教大学長が、「何を学びたいか分からなければ、分らせてくれる大学を

## 首都圏西部大学 単位互換協定会

### 高校生対象のセミナー開始

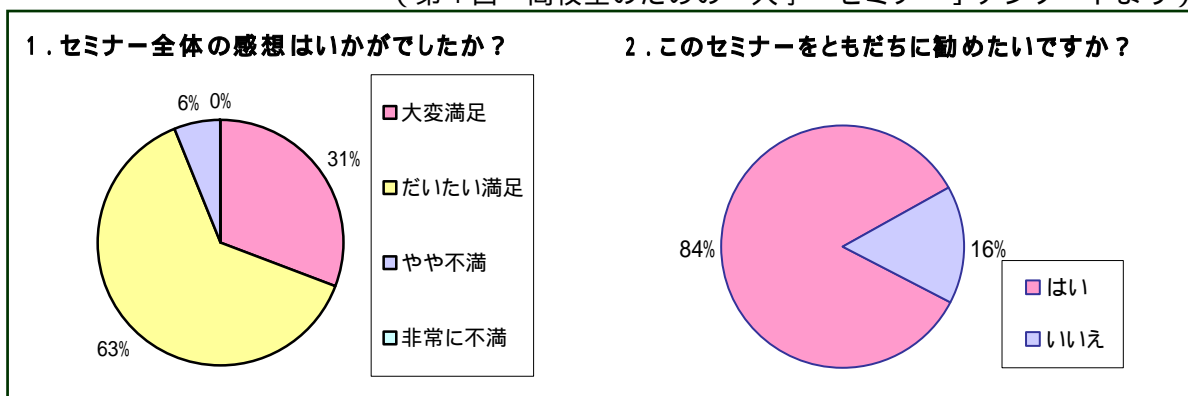


選ぶ」「自分のこだわりを、まかせななどと、大学で何度も転部した自身の経験を踏まえ講演。続いて、気象学や衛生学、環境経済学などを専攻とする東大や東工大などの教授六人が、それぞれの立場から「環境をテーマに語り、高校生らは、同一テーマでも様々なアプローチの方法がある学問の多様性に驚きながら、真剣にメモを取っていた。二百目のきょう二十六日は会場を桜美林大(町田市)に移し、大学教授や高校教諭、本紙記者らが自らの体験などを基に語るシンポジウム「高校時代、これは必須だよや、三十三大学の学生による進路指導が行われる。三日目は、山野美容芸術短大(八王子市)で、桜美林、国士館など六大学の教員が模擬授業を行う。都内から参加した下北沢成徳高校三年の加山里奈さん(17)は「きょうの講演では、学問にはたくさん可能性があることを知った。三日目の模擬授業も高校では勉強できないものなので、とても楽しみです」。同協定会の本郷慶紀子事務局長は「このセミナーを、自分に合った大学を探すべききっかけにして欲しい。意欲ある学生が入学すれば、大学のレベルアップにもつながる」と話していた。

初日のこの日は、桐川正吉・国際基督教大学長が、「何を学びたいか分からなければ、分らせてくれる大学を

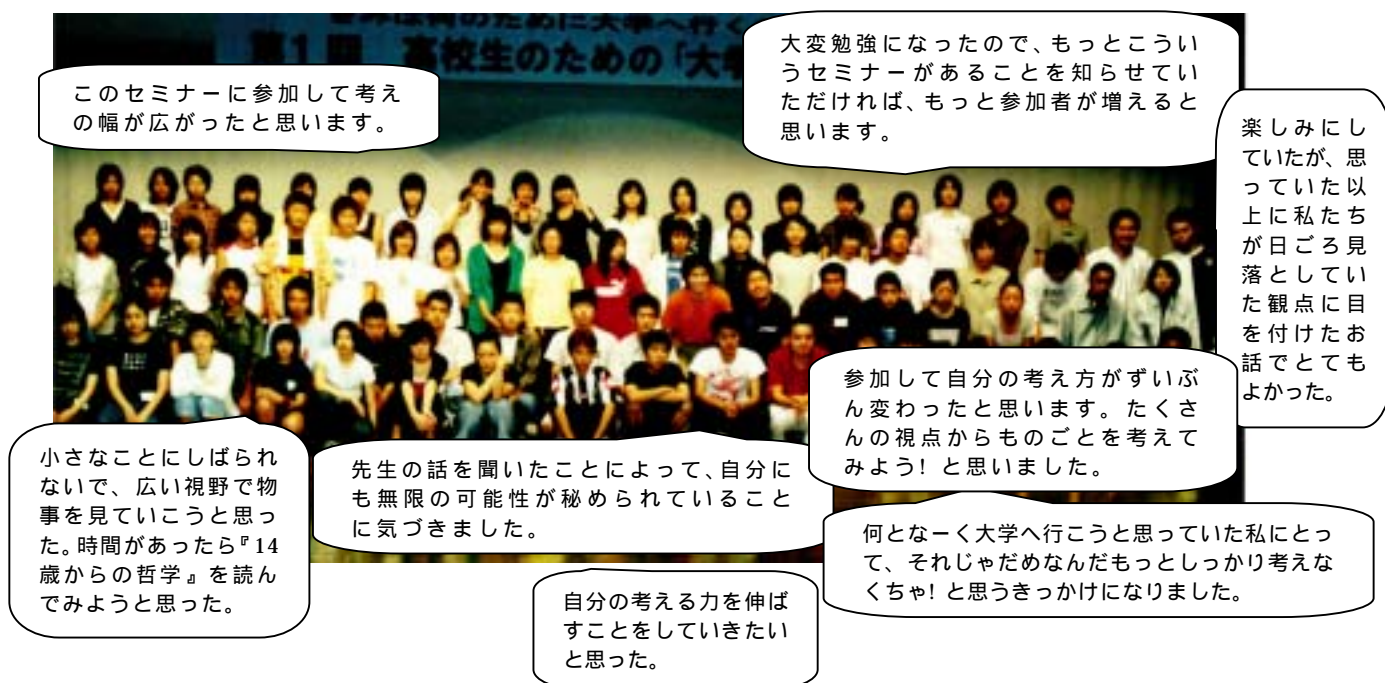
## 別紙資料9：「高校生のための“大学”セミナー」満足度

(第1回「高校生のための“大学”セミナー」アンケートより)



## 別紙資料10：第1回「高校生のための“大学”セミナー」参加者の感想

(第1回セミナー参加者アンケートより)



## 別紙資料11：共同授業受講許可者数一覧

	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度	
	大学生	高校生	大学生	高校生	大学生	高校生	大学生	高校生
暮らしと健康	144		98	17				
現代社会とヒーリング	207		84	20	90	14		
人と文化			71	16	36	11	68	23
豊かに生きる			95	6	108	10	123	8
こころとからだの科学					158	15	210	5
環境と生活							71	12
合計	351		407		442		520	

麻布大学  
和泉短期大学  
桜美林大学  
大妻女子大学  
神奈川工科大学  
鎌倉女子大学  
國學院大學  
国土館大学  
相模女子大学  
相模女子大学短期大学部  
産能大学  
松蔭大学  
湘北短期大学  
昭和音楽大学  
昭和音楽大学短期大学部  
女子美術大学  
女子美術大学短期大学部  
高千穂大学  
玉川大学  
田園調布学園大学  
田園調布学園大学短期大学部  
東京工芸大学  
東京女学館大学  
東京田中短期大学  
東京農業大学  
ヤマザキ動物看護短期大学  
山野美容芸術短期大学  
横浜美術短期大学